



森林の保健休養機能を高めるには -森林公園と別荘地の事例-



はじめに

森林は、「生物多様性保全」「地球環境保全」「土砂災害防止機能／土壌保全機能」「水源涵養機能」「快適環境形成機能」「保健休養機能」「文化機能」「物質生産機能」の多面的な機能を有しています。山梨県の森林公園や別荘地には多くの利用者がおり、それらでは特に「保健休養機能」の発揮が求められています。また、利用者の安全性や利便性を高める管理、さらには、増加している野生獣への対応なども求められています。そこで、森林公園や別荘地における保健休養機能を向上させる森林整備を行うために、試験研究課題「森林公園や別荘地における保健休養機能の向上に資する森林整備に関する研究」(H27-29)を実施しました。

森林公園での森林管理

森林公園である武田の杜(甲府市)は、森林セラピー基地として認定されており、森林セラピーツアーが実施されています。その参加者へ主催者が実施したアンケート結果を分析しました。森林セラピーツアーに関する参加者の感想として、時間的長さは、山梨県内からの参加者では「もっと長く」と「ちょうどよい」が拮抗していました。また、森林セラピーツアーの運動強度に関する参加者の感想は「ちょうどよい」という感想が多かったものの、山梨県内からの参加者では、もっと「きつく」してほしいという回答も一定数見られました。



また、保健休養機能を高める森林景観整備に関する既往研究によると、基本的には、人間の感覚として「見通し」を確保することが森林景観整備に重要でした。このような「見通し」は、森林整備によって確保されるものの、その後は植生の回復等によって阻害されることから、継続的な維持管理が必要とされます。また、森林セラピーのための立木の密度管理の指針(950-1300本/ha程度の中庸な密度の林分が視覚的には好まれる。萌芽更新されてきた森であれば、7-8本ある幹を1-3本にするくらいの強度の間伐を行う。)も提示されており、これに沿った森林景観整備が今後必要となるでしょう。

別荘地での森林管理

カラマツは、新緑も黄葉も美しく、高標高の別荘地で多く植栽されています。一方で、落葉樹であることの宿命から、秋には落葉します。しかし、樹齢を重ねると大きく成長し、また病状が進行すると倒れる「心腐れ病」に罹患する木が多くなります。そこで、山梨県内外の別荘地管理者に、植栽されているカラマツ等の問題点についての情報を収集し、管理に活かすことを目的にアンケート調査を実施しました。

カラマツに関しては、成長することで適度な日陰や景観を産み出している一方、落葉の屋根への蓄積や雨樋のつまり、日が当たらず風通しが悪い、枝の電線等への荷重や接触、心腐れ等による倒木の恐れ、景観・展望が悪くなった、などの問題点が指摘されました。カラマツのように高木になる落葉樹の利点と欠点を両立させるには、まずは安全を確保すること、特に土地境界での管理を進めること、などが必要となります。また、所有者の世代交代に伴い、適切な管理が滞る例も多くの別荘地で明らかになりました。

さらに、近年増加しているニホンジカやイノシシによる庭木や家庭菜園への影響対策の必要性なども指摘されました。しかし、別荘所有者の間で野生動物やペットの管理に対する意見の相違が見られることもあり、今後どのように合意を形成しながら管理していくかが課題となっていることが分かりました。



別荘地における森林整備のモデル区画

まとめ

森林の多面的機能を発揮する上で、「ある機能を発揮することで他の機能が損なわれる(トレードオフ)」場合と、「ある機能を発揮することで他の機能も発揮される(シナジー)」場合とが見られます。前者をうまく調整して後者にするには、技術的に可能な場合もあれば、不可能な場合もあります。不可能な場合は、様々な関係者を交えて協議し、どのような機能を重視するか等の合意を得ることが必要となるでしょう。また、ある機能を発揮させるためにどのような方法を選択するのかなどが、計画者やそれを楽しむ人で異なる場合があります。このように、森林の多面的な機能を上手に発揮させるためには、今後も様々な研究が必要とされています。

作成：山梨県森林総合研究所
森林研究部 環境科
長池卓男

連絡先
TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002
メールアドレス sinsouken@pref.yamanashi.lg.jp